

青少年育成 かすみがうら市民会議

vol.14

広報誌



青少年心身健全育成事業「ジュニア和太鼓教室」



かすみがうら祭・ふれあい生涯学習フェアで発表



● 会長あいさつ ●

青少年育成かすみがうら市民会議 会長 酒井 賢治



日頃から青少年育成かすみがうら市民会議の活動にご理解ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、青少年を取り巻く環境は著しい変化を見せ、高度情報化社会への適応、犯罪の複雑化・多様化、経済的困難や虐待の深刻化、人間関係の希薄化など、青少年の健全育成の課題は、多岐にわたっております。

こうした中、本市民会議は、青少年と成人が相たずさえて、強力な市民ぐるみの運動を展開し、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的とし、青少年を犯罪や有害情報から守る取り組みを講ずるとともに、最大の目的でもある「次世代を担う青少年の健全育成」を達成するために、市民の皆様方と関係各種団体のご協力をいただきながら様々な活動を展開しております。

青少年育成を考えるつどい、ジュニア和太鼓教室（青少年心身健全育成事業）の実施をはじめ、青少年相談員連絡協議会、高校生会、子供食堂及び中学校立志事業への補助金交付、かすみがうら市ウイークエンド・コミュニティー・スクール事業（KWCS 事業）、いばらきっ子郷土検定県大会参加への助成、さらには、二十歳の集い（旧成人式）での記念品配付、広報事業など、皆様にご賛同いただきました会費を大切に活用させていただいております。

市民の皆様方には、今後とも、「地域の親」「社会の目」として子どもたちを温かく見守っていただき、本会へのより一層のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



❖青少年育成かすみがうら市民会議とは

次世代を担う青少年が、社会における自らの役割と責任を自覚し、豊かな情操と広い視野を持った大人へと成長することは、市民すべての願いです。その願いの実現を目指し、地域環境整備や青少年への働きかけを行うことは、我々大人の責務であるといえます。

こうした責務を果たすべく、市民ぐるみの運動を展開し、次世代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に、「青少年育成かすみがうら市民会議（以下、市民会議）」が結成されています。

❖市民会議の事業とは

市民会議では、青少年の健全育成運動の総合的企画や関係機関・団体等との連絡調整をはじめ、青少年の健全育成を推進するために各種事業の実施や関係団体の支援、青少年育成に対する関心と理解を深めるための広報・啓発活動を実施しています。

❖市民会議の活動費

市民会議は、その活動にご賛同いただいた皆様からの会費によって運営されています。

会費は、青少年健全育成を目的とした事業の実施や学校・関係団体への支援に対する貴重な財源として活用させていただいております。

❖今年度(令和7年度)の事業

青少年育成を考えるつどい

青少年心身健全育成事業（ジュニア和太鼓教室）

青少年健全育成に関する広報活動

かすみがうら市ウィークエンド・コミュニティー・スクール（KWCS）事業

二十歳の集い（旧成人式）での記念品配付及び式典準備費への助成

青少年相談員連絡協議会の活動への助成

市リーダーズ高校生会の活動への助成

子供食堂ふぁみりーの活動への助成

中学校立志事業への助成

いばらきっ子郷土検定県大会参加への助成

❖会員募集について

本会では、毎年会員を募集しております。本会にご賛同してくださる方には、会費を納入いただいております。なお、会費の納入につきましては、毎年6月頃に区長・自治会長・常会長・班長の皆様を通してお願いしております。【会費】 一般会員：年額200円、賛助会員：年額1口1,000円（1口以上）

会員加入にご協力をお願いします。

..... ~推進している運動をご紹介します~

「あいさつ・声かけ運動」

まず、大人から子どもにあいさつ・声かけを始めてみましょう！

「あいさつ・声かけ運動」は、家庭、学校、地域で、大人と子ども・大人同士・子ども同士のコミュニケーションを広げる運動です。

青少年が、将来への夢や希望をもっていきいきと成長していくためには、地域社会の大人たちが、学校や家庭と連携を図りながら支援していく必要があります。

「親が変われば、子どもも変わる運動」

いつの時代にも、次代を担う青少年を健全に育てていくことは親や大人の使命です。

私たち親や大人は、青少年問題の背景には親や大人の生き方や社会のあり方が深く関わっていることを自覚して自らの生き方を見直し、姿勢を正していかなければなりません。

青少年の人格形成には、日常生活における親の子どもへの関わりが大きく影響します。親が、子どもたちのよい手本となるよう親自身が変わっていく必要があるため、大人のマナーアップ運動としても実施しています。



令和7年度

「青少年育成を考えるつどい」

令和7年7月12日(土)霞ヶ浦コミュニティセンターで、青少年健全育成に対する理解と関心を深めることを目的とした「青少年育成を考えるつどい」を市PTA連絡協議会との共催で実施しました。

第1部 少年の主張大会

第1部の「少年の主張大会」は、市内各中学校・義務教育学校の代表者6名が、日頃の生活の中で感じたことや考えていることの主張・発表が行われました。

タイトル	学校名	氏名
自分を信じること	千代田義務教育学校	杉本 優菜
伝えたい言葉は	下稲吉中学校	益子 結菜
ため息と幸せの距離	霞ヶ浦中学校	圓城寺 美緒
「頑張っってね」の意味	千代田義務教育学校	越渡 莉子
自信とは	下稲吉中学校	井坂 光輝
環境とRICE	霞ヶ浦中学校	薬師寺 陽和

(敬称略)

※市内中学校の学年表記は、令和4年度より、小中一貫教育の実施に伴い7～9年生になっています

自分を信じること



千代田義務教育学校9年

杉本 優菜

みなさんは自分に自信はありますか？ 私が同じ質問をされたら「もちろんありません。」と自信を持って答えます。そうです、今の私は、「自信がない」ことに自信を持っていると堂々と答えられるのです。

私は運動が苦手です。なぜなら運動が得意な人と比較してしまうからです。行動する前から私は何かと比較をして「できない」「どうせ上手くいかない」と考えてしまいます。諦めの気持ちを持ちながら挑戦するので結局、失敗し苦手になることが多いです。そして失敗することを恐れ自信を無くしてしまいます。

また、私は人に頼ることが苦手です。私はよく物事を後ろ向きに考えてしまいます。そのため人を頼ると「めんどくさ、自分でやって」と思われているのではないかと考えてしまい頼るのをためらってしまいます。

そんな私は自信いっぱいだったために恥ずかしい思いをしたことがあります。それは授業中、自信満々の発言を間違えてしまったことです。

私は社会が得意で今までたくさん発言をしていました。発言をするために予習や復習をたくさんしていました。その日、先生は

「応仁の乱はなぜ起きたのか。」

についてみんなから意見を集めていました、私は応仁の乱について予習を軽くしておいただけでしたが自信があり手を挙げました。今まで発言を失敗したことがないのと歴史が大好きだったから私には自信がありました。しかし、先生からは

「それは少し違うね。」

と言われクラスみんなの視線が私に集まりました。そしてその後別の人が応仁の乱について正解し私は恥ずかしくなりました。正解を聞くと確かにそうだった

となりました。なんで間違えたのか、なんで手を挙げてしまったのか、なぜ自信を持ってしまったのか。私はずっと考えていました。こんなに恥ずかしい思いをするならもう自分から発言するのをやめようと思いました。

それから私はどんな教科でも自分から進んで発言をしなくなりました。復習の時間でも自分で答えをわかっているながら答えを間違える恐怖から手を挙げる事ができませんでした、私はすっかり自信を失っていました。

しかし私は今、少しずつ発言をしようと思っています。そのきっかけはある映画のキャラクターの言葉です。そのキャラクターは無邪気で冒険好きな少年として描かれています。

「All it takes is faith and trust」(必要なのは、ただ信じることさ)

その少年はよく冒険をしているからこそこのような言葉が生まれたのだと思います。

この言葉をきっかけに私は自分を信じてみようと思いました。自分から発言を進んでしたり相手と自分を比較しないようにするため、少しずつでも自分のいいところや自分らしさ自慢できるようなところを探すようにして自信をつけています。そのようなことをしていたら、ある日の歴史の時間に手を挙げて発言することができました。発言ができた時、私はとてもうれしかったです。心の中では間違えていないか、間違っていたらどうしようと不安でいっぱいでしたが、私は歴史が得意というところを見つけたから少しだけ自信がつかしました。

まだ私に100パーセントの自信はありません。今でも、周りの人と自分を比べて落ちこむことがあります。ですがそれを逆に考え、私には人のいいところを見つけるのが上手と考えてみたりしています。人を頼ってもいいと少しずつ思えるようになりました。自分を知ることや受け入れることで自信をもてると私は考えています。

いつか自分を信じて何にもおびえないかっこいい人になりたいです。

伝えたい言葉は



下稲吉中学校9年
益子 結菜

私は、自分の言葉を誰かに伝えることが苦手です。もちろん日常会話の中で「これ美味しいね」「あれが好き」など、自分の意思を伝えることはできます。でも、相手の悩みに対して意見を伝えたり、心の奥に踏み込むような言葉をかけたりすることになると、言いたいのに声が出せず、気

づけば黙り込んでいる自分がいます。「この人の気持ちを私は本当に理解できているのだろうか」「私が言った言葉で傷つけてしまったらどうしよう」そんなふうを考えているうちに、タイミングを失ってしまい、何も言えずに話が終わってしまいます。私はいつも自分の想いを伝えるよりも、相手を傷つけないことを選んできたのです。

そんな私を変えたのは、兄の出来事でした。当時、兄は受験期のプレッシャーの中で、精神的に追い詰められていました。私もそれには、なんとなく気づいていました。時々、兄から悩みを打ち明けてくれることもあって、私はその度に「そうなんだ」「大変だね」と当たり障りのない言葉をかけては、なんと返せばいいのかわからず、深く踏み込むことはできませんでした。

そんなある日、いつも通り学校から帰ってくると、母から兄の身に起きた“あること”を知らされました。心の限界を超えてしまった兄が自分の命を手放そうとするほど追い詰められていたことを知ったのです。自分の中でとてつもない後悔が押しよせてきました。たった一言でも伝えていたら、何か変わっていたかもしれない、と。想いは言葉にしないと伝わらない。伝えるか、伝えないか、そんなことを悩んでいるうちに伝える機会すらなくなってしまうかもしれない。私はそのことを身をもって知りました。この出来事をきっかけに、私の中の「伝えること」への考え方は大きく変わりました。

以前は、伝えたい言葉があっても、傷つけないという思いから黙ってしまうことがありました。けれど、言葉にしなかったことで、取り返しのつかない後悔へと繋がることを知りました。黙って受け止める優しさも時には必要だと思いますが、勇気を持って伝えることがなにより大切だと私は気づきました。言葉にしなければ、想いは届かないからです。伝える勇気を持つことで、きっと関係は深まり、後悔も減っていくと思います。

あれから兄とも、少しずつお互いの気持ちを言葉にできるようになりました。

もしかしたら、以前の私のように、誰かを本気で思っ

ているからこそ、相手の悩みになんて声をかければいいのか分からないという人もいます。それでも、「伝えたい」と思ったその気持ちは、たとえ不器用でも伝えていいものなのだと、今は思えるようになりました。

いつ、誰がいなくなってしまうかなんて、私たちに分かりません。だから私は感謝や謝罪、大切な想いを伝えられるうちに伝えたいと思うようになりました。後悔しないために。もし今、みなさんの心の中に思い浮かぶ誰かがいるなら、その気持ちをぜひ、言葉にしてみしてほしいです。

今でも私は、うまく言葉にできないことがあります。それでも伝えようとする気持ちはきっと相手に届く。そう信じて、これからも言葉と向き合っていきたいと思っています。

ため息と幸せの距離



霞ヶ浦中学校9年
圓城寺 美緒

「ため息をつくときと幸せが逃げる」

一度は耳にしたことのある言葉だと思います。私も小さいころから父や母に何度も言われてきました。何度もその言葉を聞くうちにため息は弱さの証のようなものだと思っていました。

せっかくつかみかけた幸せを、自分の手で手放してしまうような。でも、中学3年生になった今、その言葉の意味をもう一度考えるようになりました。ため息は本当に幸せを追い払うものなのか、自分に問いかけるようになったのです。

中学生活の中で、進路のことや受験勉強のこと、部活の最後の大会、友だちとの別れの予感。いろいろなことが重なってしまい、つい「はぁ…」とため息をついてしまいます。ため息をついたときの私は、決して前向きではないのかもしれませんが、むしろ、立ち止まって、どうしようもない不安や焦りを見つめているような気がします。そんなとき、周りの大人たちは、「ため息なんかつかずにがんばれ」と励ましてくれます。もちろん、その言葉は間違っていないと思うし、前向きでいることの大切さもわかっています。でも、ため息をつくときほんの少しだけ心が軽くなる。胸の奥につかえていた気持ちが、息と一緒に少しだけ外に出ていくような気がするのです。

ある日、地域の図書館で見つけた本の中に「ため息は心の声だ。」と書かれていました。その言葉を読んだとき、私はため息はただの空気ではなく、心が苦しいときのSOSなのだ気づいたのです。私はそのサインを、ずっと無視してきたのかもしれないと思いま

した。ため息をついた後は、ますます心が沈み込んでしまえばかりで、幸せを感じる余裕なんてありませんでした。その本にはもう一つの言葉がありました。「ため息をついたら、深呼吸に変えてみよう」と。最初は「本当にそれで変わるのかな」と半信半疑でしたが、実際に試してみると、不思議なくらい心が、軽くなったのです。ため息を深呼吸に変えるだけで、気持ちがゆっくり整っていくのを感じられました。

それから私は、苦しいときこそ深呼吸をするように心がけています。息を吸って、吐いて。その一呼吸に自分の気持ちを込めるのです。すると、少しずつ心が穏やかになり、周りの景色が優しく見えてきます。友達と笑い合う時間や、家族と一緒に食べる食事。そんな当たり前のように見える日常に、小さな幸せがちゃんとあるのだと気づけるようになりました。

「ため息をつくとき幸せが逃げる」という言葉は、きっと「ため息ばかりついていると、目の前の幸せに気づけなくなる」という意味なのだと思います。幸せはどこか遠いところにあるわけではなく、すぐそばにあります。ですが、ため息をついてばかりだと、心が下を向いてしまい、そうした小さな幸せを見失ってしまうのです。小さな花が咲くのを見つけたときや、友達からの「ありがとう」の言葉。そんな一瞬一瞬にも、確かに幸せは存在しています。

私も、これから先にもっと大きな悩みにぶつかるかもしれません。思い通りにいかない日も、涙が出る日もきっとあると思います。そのときは「ため息を深呼吸に変えよう」と思い出したいです。自分の心を大切に、優しく包み込むように呼吸をする。そうやって、自分を見失わずに前に進んでいけるのだと思います。

幸せは逃げるものではなく、自分の心が見つかるものなのだと思います。だから私は、これからも小さな深呼吸を重ねていこうと決めました。どんな日でも、ちゃんと自分の心と向き合っ、小さな幸せを見つけていきたいです。そして、その小さな積み重ねがきっと大きな幸せをつくと信じています。

「ため息をつくとき幸せが逃げる」

その言葉を思い出すと、少し不安になることもあります。けれど、ため息をついたあとに、もう一度前を向くことができたなら、きっと幸せは逃げない。そう信じています。



「頑張ってね」の意味



千代田義務教育学校9年

越渡 莉子

小さいころの私は、勉強が得意で両親や周りの大人たちから「頭が良くて将来有望だね」と言われてきました。それを聞いた両親が私のことを自慢だと言ってくれると私は嬉しくなっていました。「また頑張ろう」と思っていました。

「また、私は幼い頃からたくさんの習い事をしていました。大変だったけれど喜んでもらえることや嬉しので一生懸命やっていました。

しかし、小学生の終わり頃、通っていた塾が閉校されたので、中学受験のための塾に移ることになりました。そこには、私よりもずっと成績が良く、将来のために努力している人がたくさんいました。私はまだ将来のことなど深く考えたことがなかったので、レベルの高い内容の授業についていくことができませんでした。小テストも毎回半分の数も取れず、私は塾をやめ、中学受験もしないと決めました。それから、得意だった勉強が嫌になりました。また、たくさんやっていた習い事もやめていき、親に続けるよう言われた英会話教室だけ続けていました。

私は中学生になり、最初の間テストを受けました。中間テストは小学校の復習が多かったこともあり、学年で上位の成績を取ることができました。両親や友達からまた期待されるようになり、私は嬉しかったことを覚えています。

しかし、中学生の勉強はとんどん難しくなってい、思うように成績が伸びなくなりました。成績が下がるたびに親からは怒られてしまい、がっかりさせてばかりになってしまいました。いつの間にか得意だった勉強はうまくいかず、また嫌になっていきました。両親からの「今度こそ、上位の成績を取れるように頑張ってね」という言葉も、プレッシャーにしか感じられなくなりました。私なりに頑張っているのに、周りの友達の順位が上がれば私の順位は下がり、「また怒られる」と思うようになっていきました。我慢の限界だった私は、ある日「怒らずに少くらは褒めて欲しい。私なりに頑張っているんだよ！」と親に言ってしまいました。自分でも努力が足りないことはわかっていましたが、プレッシャーになっていることを初めて両親に話すことができました。

その数日後、夜中に起きていた私は、偶然両親の会話を聞きました。「どうすれば莉子がやる気を出してくれるか」「なんて声をかけてあげればいいのか」と私のことで話していました。その言葉からは、両親が私のことを心配して助けようと悩んでいたことを知り

ました。私はその時「頑張ってるね」の言葉は怒りだけではなく、私への心配と応援の気持ちがあったことに気がつきました。私は両親の期待に応え、いつまでも自慢の娘でいたいと思いました。

そこから私は、特に苦手な社会料の勉強をしました。そのおかげで、前回のテストでは社会料の点数が過去最高になりました。しかし他の教科が下がってしまい、そこまで良い成績ではありませんでした。両親に伝えると、やはり少し怒られました。でも、「次は、社会料以外も頑張ってるね！」と言ってもらえました。私の頑張りを見てくれたことがとても嬉しくなり、次は他の教科も頑張ろうと思いました。

もう受験までは1年もありません。勉強を頑張ろうと思ったのが遅くなった分、これからの時間を大切に第一志望の高校に合格し、両親に喜んでもらえるように努力を続けていきたいと思っています。

もし、勉強のことで家族との関係がうまくいかなくて悩んでいる人がいたら、家族に気持ちを伝えてみてください。家族はきっとあなたの努力をわかってくれると思うし、応援してくれるのではないのでしょうか。家族の応援を力にして、自分の将来のために努力を続けてみるといいのではないのでしょうか。

自信とは



下稻吉中学校9年
井坂 光輝

「自信」とは何だろう。また「自信」って何に対して持てばよいのだろう。「自信」という言葉自体は結構自分でも口にするし、他人もよく言っている。しかし「自信」という言葉の本質や、自分の中の「自信」とは一体何なのだろう。

私は今現在や今までに様々なスポーツをしてきた。

真剣に部活や生きがいややっているものもあれば、単に友達との遊びや体育の授業の一貫、また体づくりのためにやっていたものもある。どんな活動であってもスポーツなだけあって、まずは練習をする。今までやってきたどのスポーツをとっても練習や試合関係なく、チャレンジする場面があった。そしてその場面、どのスポーツでも毎回共通して言われる。「自信を持ってやろう。」と、また今までサッカーを通して色んな大会にも参加してきた。そのような練習の集大成の時、そこでも試合前のミーティング、試合中でも最終的に言われることが「自信を持ってやろう。」だった。実際に自信を持ってやることは原点であり、最終的にも一番大切なことでもあると思う。しかしこの「自信」という言葉はかなり曖昧な言葉ではないだろうか。今までやってきたことの総称だったり、とりあえず一心

にやってみたり、っていうように捉えるなら、それを一言で伝えられる万能な言葉だと思うが、いざ最終局面で信じたり、もっと細かく意識したくてプレーしたい時は、「自信」という言葉で一括りで伝えるのはあまりにも不十分すぎると思う。実際私は後者の考え方である。この考え方については人によって違うから何とも言えないが、自分はふと思ってしまう。「自信を持ってやろう」と言われたが、何に自信を持てばいいのだ。」正直この問いは人によって考えが違うから聞いても参考程度にしかならない。また「自信」とは状況によってすぐ形を変える。だからこの先もずっと自分を見つめてこの問題とともに生きていくしかないと思う。しかしこの答えでは自分の思う「自信」とは程遠い気がした。だからこそもっと自分の納得できる「自信」の答えが見つかるように考えた。仮に自分の主観で調子の良かった場面を「自信」をよく持ててきた時と思って振り返った。そしたらいくつかの共通点に気付いた。それを言語化すると、「一つのことだけに真っすぐ集中できている。」「全く周りからの評価を気にしていない。」「悪い後先の後悔を考えていない。」「そして「その状況を楽しんでる。」この4点だった。つまりこれらの考えが個人的な現在の「自信」であった。ありがちかもしれないし、人によっては他の事の方が「自信」に対して重要かもしれない。しかし私は自分の中の「自信」であるこれら4点を大切にしていきたい。また他の人にも自分だけの「自信」を大切にしたい。今の多様性が認められる時代だからこそ私は他人の意見に流されず、多方面から考え、自分だけの「自信」を持って生きていくことが重要だと考えた。

「自信」についての正解は、自分だけが知っている。正解を考えれば、正解は見つかる。そしてその「自信」が身についた先に新しい自分がある。その新しい自分へ辿り着く過程こそが「自信の本質」であると私は考える。

近々、部活の総体が始まる。その試合は、中学校の部活の引退がかかった大切な試合。そこでも今回導き出した自分だけの「自信」を持って戦っていきたい。

環境とRICE



霞ヶ浦中学校9年
薬師寺 陽和

私ははじめて日本の食料自給率を知ったとき、お米の自給率がほぼ100パーセントであるということに感動していました。そのときは毎食のように日本産のお米を食べていましたし、無知なため外米というものがない存在することさえ知らなかったのです。ですが今年に入り、お米のニュースが

流れてくるたびに最近、スーパーなどでお米の値段の変動を気にするようになってきました。外米の話題も多く飛び交う今、あの感動が今後失われてしまうのではないかと不安になっています。

なぜここまでお米の値段が上がっているのか。ニュースを流し見していると、業者間での取引が増えたこと、お米の供給と需要のバランスが偏ってしまったことなどが重なってしまったためなのだと知ることができました。ですが実際に今後このまま値段が上がり続け、お米の自給率が下がってしまうということはないでしょう。需給のバランスは少しずつ落ち着くでしょうし、取引だってこの価格の高騰によって止むと思うからです。それでもまだこのような不安が残っている理由として、環境問題の関わる出来事でもあるのだと知ったことがあります。「多く増やしてしまった環境問題をどうにかしたい」と私を含む世界中の人が思っているはずです。

そこで私は、SDGsならぬRICEを提案します。SDGsのように様々な問題解決の目標を含むものではありませんが、地球を守っていく意味でまた別の目標が必要だと考えました。馬鹿げた提案だと思われるかもしれませんが、これは異常気象と関係している地球温暖化とRICE、お米が結びついたものです。remember（現状を覚えて）imagine（この先の地球を想像して）choose（行動を選んで）evolve（問題解決に向けて進化する）という意味を加えています。そこまで具体的ではありませんが、今日本で問題視されているお米と、世界で問題とされている地球温暖化をかけ合わせた、いまの私達ができる身近な行動のまとめとなっていると思います。このRICEを通して日本のお米の高騰と変わりつつある地球の気候を少しでももとに戻していきたいと考えています。

いまや地球温暖化は多くの問題を抱えながらも酷く

速い速度で進行しています。私の不安は日本産のお米だけではありません。世界の農産物や自然がこの地球温暖化によって、「人間の手によって」失われてしまうということもそのうちのひとつなのです。私は日本で最も食料自給率の高いお米を守らなければならないと思っています。世界での環境保護の取り組みが当たり前になってきている今だからこそ、生活の快適性ばかりを求めてはならないはずなのです。この先もよい状態で存在できるよう、ひとつひとつの行動に気をつけていきたい。地球温暖化は世界でもかなり問題視されていると感じます。でもそれでは足りない。この問題を少しでも改善していくためには世界の人々全員の意識が必要です。きっと、地球温暖化が進むにつれて人間の感じる負荷は多くなるでしょう。いま、少しでも気を付けて生活することができれば、多くの生物の家が守られ、命が守られ、そして私達の快適な生活が守られると言えます。世界中の人が気をつけることで、この地球はこの先ずっと美しく過ごしやすい世界を提供してくれるでしょう。私はこの先もそんな地球を大切に、守りたいと思うのです。



主張発表を終えて…

青少年育成を考えるつどい

第2部 講演会

『生成AI活用体験会』

第2部の講演会は、かすみがうら市PTA連絡協議会による「PTA指導者講習会」として、文部科学省学校DX戦略アドバイザー（スクールエージェント株式会社代表取締役）の田中善将先生から、超実践的な生成AI入門の講演が行われました。



研修会等へ参加しました

○土浦地区青少年育成市民会議連絡会 研修集会

令和7年11月28日（金） 石岡市役所八郷総合支所

- ・事例発表／つくば市、石岡市
- ・研修「青少年健全育成に係る講話」

○青少年健全育成茨城県推進大会

令和8年2月10日（火） ひたちなか市文化会館

- ・表彰式及び感謝状贈呈式
- ・講演会「“ふつうの家庭”ってなんだろう」
—社会的養護の現場から見た、家庭のかたち—

◆今大会において、「かすみがうら市リーダーズ高校生会」が青少年団体等顕彰を受賞し、表彰されました。



かすみがうら市 青少年相談員連絡協議会

青少年を取り巻く社会環境を健全化し、青少年の健全育成と非行防止に資することを目的として様々な活動を行なっています。



①巡回活動

徒歩や青色防犯パトロール車で、毎月2回程度、市内の施設や店舗を中心に巡回しています。市内の公園や神立駅周辺の防犯パトロールも行なっています。

②あいさつ・声かけ運動

生徒が登校する時間にあわせ、市内の中学校・義務教育学校であいさつと声かけを実施しています。

③啓発活動

神立駅での非行防止キャンペーンや市内のイベントにて、多くの方に青少年健全育成への理解を語りかける活動をしています。

④店舗への訪問活動

コンビニエンスストアなどの商業施設を訪問し、「青少年健全育成に協力する店」として良好な環境づくりへの協力をお願いしました。なお、市内では現在40店舗にご協力いただいております。

⑤視察研修会

青少年相談員としての更なる資質の向上を目指して、令和8年2月5日（木）に東京都狛江市にある愛光女子学園（関東・甲信越静地方の家庭裁判所の決定により送致された女子少年の矯正教育施設）を訪問し、施設内の見学に加え地域における非行防犯の防止に関する活動や青少年の健全育成に関する活動の支援等を説明していただきました。貴重なお話を聴くことができ、今後の活動の参考にすることができました。

⑥県青少年相談員連絡協議会第5ブロック研修会

土浦市・石岡市・つくば市・かすみがうら市の青少年相談員相互の連携を深め、広域的な青少年問題に対応できる体制づくりのため、研修会が実施されています。



あいさつ・声かけ運動



非行防止キャンペーン



かすみがうら祭



青少年心身健全育成事業 ジュニア和太鼓教室

市内の小中学校及び義務教育学校の3～9年生を対象に、市ウエルネスプラザで和太鼓教室を開催しました。28名の参加者が、あゆみ太鼓の方々の指導のもとバチの持ち方や構え方などの基本的な練習から始め、6回の教室で「熱き風」という曲が演奏できるようになりました。

演奏に加え振り付けもあり、初めは悪戦苦闘していた子どもたちも、毎週練習を重ねて上手に演奏できるようになりました。そして、その集大成として、かすみがうら祭、ふれあい生涯学習フェアにおいて、多くの方々に素晴らしい演奏を見ていただきました。



ジュニア和太鼓教室の練習風景

高校生会の活動



今年度の会員は31名で、定例会に加え、学習支援ボランティアへの協力や市子ども会事業への参加、市民窓口センターのギャラリースペースでのクリスマスツリー装飾など、幅広い取組を行ってきました。また、高校生会の新たな企画として、ジャンボ松ぼっくりを活用したクリスマスイベントを実施し、小学生が参加するなど、会場は大いに賑わいました。

「できるときに、できることを！」を合言葉に、高校生ならではの視点を生かしながら、身近な地域活動に主体的に取り組んでいます。

高校生会では、新規会員を随時募集しています。興味のある方は、生涯学習課までお気軽にお問い合わせください。

子供食堂ふぉみりーの活動

令和4年5月に開設。「子育てを終えた世代」を中心の有志ボランティアにより、下稲吉コミュニティセンター（旧働く女性の家）で、毎月第4土曜日に実施中。夏と冬の年2回、「お楽しみ会」も開催しています。現在は、活動場所に飲食スペースが確保できないため、テイクアウト（持ち帰り）形式での弁当を提供。食材の購入には青少年育成かすみがうら市民会議の補助金を活用するほか、市内農家や企業からの寄付を受け、毎回100食分（子ども100円・大人300円）の食事を地産地消と手づくりを心がけて提供しています。



二十歳の集い事業（旧成人式）

令和8年1月11日（日）下稲吉中学校新体育館にて、令和8年かすみがうら市二十歳の集いが行われました。261名が出席し、懐かしい友との再会を喜び、新たな人生の一步を踏み出しました。

二十歳の集い事業には青少年育成かすみがうら市民会議も協賛し、参加者に記念品を贈りました。



KwCS

かすみがうら市 ウィークエンド・コミュニティ・スクール事業

市内に住む児童・生徒を対象に、心豊かな人間性と郷土を愛する心を育むことを目的に、学校や家庭などの日常生活では経験できないような体験学習を関係機関、団体、組織が一体となって実施しています。

今年度は、子ども会育成連合会の「モルックチャレンジ」、2025リーダー研修会「救命救急」、「わくわく全開！デイキャンプ」の事業助成を実施しました。

モルック チャレンジ

OUTDOOR!

わくわく全開！ デイキャンプ



2025リーダー研修会「救命救急」 —消防車両見学—

2025リーダー研修会「救命救急」 —救命救急講習—



青少年育成かすみがうら市民会議

事務局 かすみがうら市教育委員会事務局生涯学習課
〒315-0075 茨城県かすみがうら市中志築2112
千代田コミュニティセンター内

TEL.0299-57-1073 FAX.0299-57-1156

発行日：令和8年3月19日